

## TECO Green Tech Contest 2016

2016年8月23日(火) 台湾 National Taiwan Science Education Center

台湾企業TECO Electric and Machineryが主催するグリーンテクノロジー技術の国際コンテスト「TECO Green Tech Contest」に、早稲田大学の代表として本間敬之教授率いるプログラム履修生チームが出場しました。

▶授賞式の様子(右から本間先生、大谷君、露木君、竹延君、村上君)



イギリス、ドイツ、ロシア、スウェーデン、中国、シンガポール、日本の各国名門大学の代表20チームが競い、本プログラム履修生チームが提案した「Zn Batteries for Voltage Control in Power Distribution System: Scalable and Low-cost Approach」は見事Best Originality Awardを受賞しました。

## 北京大学とのジョイントワークショップ

2017年2月19日(日)～21(火) 北京大学

本プログラムでは毎年北京大学とジョイントワークショップを開催しています。3回目となる今年度は、本プログラムのLD1年生5名が北京大学を訪問し、北京大学からは多様な研究室から大学院生6名が参加しました。双方の学生による研究紹介と熱心で活発な質疑応答の後、学生達で話し合い、大学混成4チームを作り、将来の研究コラボレーションの可能性について共同提案しました。



▲早大生と北京大学生のグループワークの様子

## 海外研究期間実習・インターンシップ実施状況

本プログラムではQE通過後の学生を対象に、海外大学・研究機関での実習と国内外の企業・国際機関でのインターンシップ(各3ヶ月)を必修科目として設置しています。LD3～5年生述べ31名の派遣先機関と、学生の声を紹介します。

## ■海外研究機関実習

## 〈実績〉

UCLA(米)、ロチェスター大学(米)、マサチューセッツ大学(米)、インペリアルカレッジ(英)、ボン大学(独)、テネシー大学(米)、モナシュ大学(豪)、KAUST(サウジ)、シンガポール国立大学(星)、他海外15大学

## 〈学生の声:後輩学生へのお勧めポイント〉

- 世界で有名な先生のもとで研究できるチャンス。コネクション形成にも役立つ。
- このプログラムの目玉なので存分に楽しむべき。自分の研究の延長ではなく、多少専門と違う分野の研究室を選ぶことも一つの選択肢とするべきだと思う。
- 専門性のみならず、自分を総合的に自己評価できる良い機会となる。インターナショナルという言葉の敷居をあまり感じなくなる。
- 現地の人々の生活にまで溶け込めるとコミュニケーション向上に大変役立つ。



▲2期生池田さんのUCLAでの研究機関実習の様子

## ■企業インターンシップ

## 〈実績〉

P&G(米)、ブリヂストン(米)、BASF(独)、シーメンス(独)、OECD/NEA(仏)、IAEA(澳)、EPRI(米)、AMS(澳)、日立ハイテクノロジーズ(日)、サントリー(日)、他11企業

## 〈学生の声:後輩学生へのお勧めポイント〉

- バックグラウンドも世代も違う技術者とコミュニケーションを取りながら研究を推進する経験ができる。
- 大学で学んだ知識や研究の進め方と、企業でのそれが別物であることを実感する良い機会。ビジネス視点で研究ができ、これからのキャリアについて考えることができる。
- 専門とは違う分野の研究もやらせてもらい、幅広い視野を身につけることができる。
- 派遣先により学ぶことが大きく変わるので、その点も考慮して積極的な姿勢で取り組むべき。人生観が変わる。



▲1期生矢部君のOECD/NEAでのインターンシップの様子